写真をレイアウトし、紙面を完起事に見出しを付け、記事や載せるかを決めます。そして面に、どのくらいの大きさで面に、どののはいいできるでいる。



中央新報社 中央新報社 中央新報社 間大輔記者≒松江市殿町、山陰(右)と見出しについて相談す

取材、記事、見出し… 新聞作りのキーワード

賞えよう! (When) (Where) (Who) どのように どうした なぜ

第8回 しまね小中学生新聞コンクール



職場体験新聞 徳安凜さん(島根大付属義務教育学校後期課程) 山城北公民館」

中学3年生の部 沖縄の地に立って」

山本雪那さん(島根大付属義務教育学校後期課程)

次回は22日掲載です。



これまでの優秀作品は山陰中央新報 社のホームページで見ることができま

最も大事なことを大きく

を付け

◆今日の講師 編成局整理部

大輔記者(34)

などさまざまな面を担当してい陰総合面、社会面、スポーツ面陰総合面、社会面、スポーツ面のら山 して1年半勤務後、2009年入社。 などで取材記者を経験。 本社報道部 面から



作業です。新聞社では、締め!気にさせる」のは本当に難し ることができます。 ほど大きな字にでき、 ペースでは、字数を少なくする ほどで伝え、 どで伝え、しかも「人を読む記事の内容をたった10~30字

もいまだに緊張します。 りが迫ると時間との闘いで、 が追ると時間との闘いで、 が過ると時間との闘いで、 事に書いた内容以上に大げさな記事に書いていない内容、記 内容以上にしな

分かか

し」にします。限られた紙面スで、最も大事な内容を「主見出てうして見つけたことの中

「主見出し」を一つ、主見出しのを伝える、一番大きな見出しの で、1本の記事で、1、1の見出しは10文字前後 付けます。一番重要な内容 1本の記事に一つから三つ かるよう、 どのように・どうした」のか分

す。付ける、

して、紙面というお皿に盛りた記事と写真という素材を料理

出しを付けるときも意識し、「い も出てきた「5W1H」を、

取材の仕方、記事の書き方で

取材記者がまとめ

の記事を読んでみよう」と思わ

まとめてあります。 目で分かるよう、

読者に

分かるよう、記事の内容が何がニュースなのか。ひと

この記事は何を伝えた

ルのようなものが 新聞記事についているタ 番伝えたいの は

者がいます。編成局を書く「取材記者」の

。編成局整理部に所材記者」の他にも記

新聞社には、

取材をして記事

属する「整理記者」

記事を読んでニ

ります。 かを見つけ出します。 そして「この記事で自分が一番記事をしっかり読み返します。 乏寸ナます (図★) ° を補う見出しを一つから二つ程 度付けます 最初は文字数は気にしなくても と」を探し、紙に書き出します。 伝えたいこと」 見出しを考えるときはまず、 自分が何を言いたい (図 ★ 「最も大事なこ

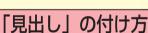
事に見出しがない新聞をよく見ール」の審査をしていると、記「しまね小中学生新聞コンク ります。一方、優秀な作品は、「項目」になっている新聞もあ

を、皆さんは一人でしなければ配者が役割分担していること配者が役割分担していることを理が問社では、取材記者と整理をえたいか」が伝わってきます。

しです。最後にしっかりチェッい、せっかく書いた記事が台無読者に誤った情報を伝えてしま人の名前や数字を間違えると、 クしましょう。 12月4日まで

「見出し」とは?

少ない文字数で記事の内容を表したもの 見出しを見れば、何が書いてある記事か分かる 記事を「読んでみよう」と思わせる、読者を引



自然を守ろう!

・ 記事をしっかり読み、「何がニュースか(一番伝えたいことは何か)」

2 記事に書いてある「いつ」「どこで」「誰が」「何を」 「なぜ」「どのように・どうした」の「5W1H」の 要素を意識して、印象に残った言葉を紙に書き出し、

1 本あたりを 10 文字前後に整える

※文字数が少ない方が字が大きくなり、目立たせることができる 4 一つの記事に見出しは1~3本付ける。大きな記事ほど見出しの数

おきく扱う記事ほど大きな文字を使う

主見出しより小さい字で 主見出しを補足する

新型コロナ 5月6日まで この記事で伝えたいこと (安倍晋三) **首相が 新型コロナ (**感染増加に対応する) 緊急事態宣言(の対象地域を)

(東京、大阪など) <u>7都府県から</u> 全都道府県に拡大した。

(期間は)5月6日まで。 この内容を三つの見出しにした



応募締め切り

島根県内の小学生と中学生

■応募規定

●専用の応募用紙を使った個人の作品 ●テーマは自由。一人2作品まで応募可

●用紙はタテに使い、内容は枠の中におさめる ●文字は手書き(手書きが難しい人はパソコン使用可)

●人の文章や写真を勝手に自分の作品に使わない。本や新聞、インターネットの文 章を引用する時は「」をつけて示すなど、自分の文章と区別して、出典(出どこ ろとなった本や新聞の名前、掲載日)を入れる。写真は撮影者などに許可を得る

■審査と賞

●学校の先生や新聞記者による審査会を12月~来年1月に3回実施

●学年ごとに最優秀賞(1)、優秀賞(1)、優良賞(1)、入選(17)、佳作(30)の計 50点、「学校賞」(小中学校各5校程度)を贈る

●副賞は最優秀賞 (図書カード3万円)、優秀賞 (同2万円)、優良賞 (同1万円)、入 選(同1,000円)、学校賞(同1万円)。応募者全員に参加賞

●上位3賞の入賞者、学校賞は来年1月下旬に山陰中央新報の紙面で発表

●入選、佳作受賞者は来年3月に山陰中央新報に掲載予定の特集紙面で発表 ●作品は審査終了後、随時返却します(入選以上は来年3月から開催予定の作品 展終了後)

●応募作品の著作権は山陰中央新報社に属し、山陰中央新報本紙やホームページに掲載するほか、優秀作品は県内で開催する作品展で展示します●応募の際にいただいた個人情報はコンクール運営にのみ使用し、第三者への提供はしません

■応募方法



■先生方へ〜新聞社への応募の手順

●作品を学年ごとにまとめる

❷山陰中央新報社「しまね小中学生新聞コンクール」のホームページから各学年 用の「エントリーシート」(応募者名簿)をダウンロードし、学校名、応募者名、作

3各学年の作品の束に、プリントアウトしたエントリーシートを添え、新聞社へ提 出(郵送、持ち込みなど)。エントリーシートのデータを新聞社にメールで送る ■問い合わせ・作品の送り先

●住所/〒690-8668 松江市殿町383山陰中央新報社「しまね小中学生新聞 コンクール」事務局

●電話/0852(32)3414※平日9:30~17:30 ●ファクス/0852(32)3520 ■メールアドレス / shochu@sanin-chuo.co.jp



●共催/山陰中央新報会●後援/島根県、島根県教育委員会、松江市教育委員会、安来市教育委員会、出雲市教育委員会、雲南市教育委員会、奥出雲町教育委員会、飯南町教育委員会、浜田市教育委員会、大田市教育委員会、江津市教育委員会、川本町教 育委員会、美郷町教育委員会、邑南町教育委員会、益田市教育委員会、津和野町教育委員会、吉賀町教育委員会、海士町教育委員会、西ノ島町教育委員会、知夫村教育委員会、隠岐の島町教育委員会、島根県小学校長会、島根県中学校長会、島根県特別支援 学校長会、島根県私立中学高等学校連盟、島根県教育研究会、島根県特別支援学校教育研究会、島根県PTA連合会、島根県特別支援学校PTA連合会、島根県私立中学高等学校PTA連合会(順不同)●協賛/イオンリテール株式会社

